2010年度 熊本大学総合技術研究会 参加報告

中央試験所 李 在鐵

概要

■日程

- 1日目 (3/17)
 - ■「衝撃・極限環境研究センター」見学
 - ■ポスター発表
- 2日目 (3/18)
 - ■「極低温装置室」見学
 - ■「工学研究機器センター」見学
- ■まとめ

1日目(3月17日 木曜日)

ポスター発表

ポスター発表概要(1)

- 会場:黒髪北地区 体育館
- ■発表時間:30分
- ■主な発表内容
 - ■実験装置の開発・改良
 - ■研究成果
 - ■催し物

ポスター発表概要(2)

- 表題 「中央試験所の紹介」
- ■内容
 - ■主要施設の紹介
 - ■各種大型分析装置
 - 液化窒素CE
 - クリーンルーム
 - ラジオアイソトープ室
 - ■施設の利用
 - ■スタッフの業務内容、業務体制

ポスター発表会場にて



来訪者との意見交換

- 施設の自由開放に伴うリスクとデメリット
 - 操作法を教えるのが大変
 - 利用者がよく壊す
- 高価な装置を買ったはいいが、思うように動かない
 - 操作が難しい
 - ■オペレータがいない
 - 壊れても直すための予算がない
- ■装置の維持管理の難しさ
- 資金・人員不足

2日目 (3月18日 金曜日)

「極低温装置室」見学

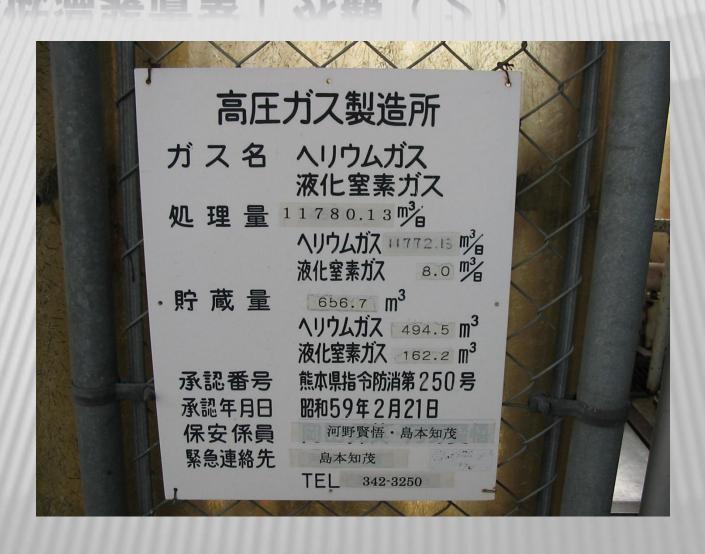
「極低温装置室」見学

- ■施設概要
 - ■液体窒素、液体ヘリウムの供給施設 (中央試験所低温室に相当)
- ■設備機器
 - ■ヘリウム液化機
 - ■窒素液化機
 - 圧縮機(液化用、ヘリウム回収用) 等

「極低温装置室」外観(1)



「極低温装置室」外観(2)



「極低温装置室」内部



ヘリウム液化機



- PSI社 1410 (2006年 金沢大学 より譲渡)
- 製造能力: 12 L/h
- 付属装置
 - 圧縮機
 - 回収ガスバッグ (10 m³)
 - 貯槽 (500 L)

窒素液化機



- ■型式
 - Linde社 LINIT25S
- 液化効率
 - 25 L/h
- 付属装置
 - 空気圧縮機
 - 貯槽 (1000 L × 2 基)

液化窒素貯槽



新·窒素液化機建設予定地



窒素液化機 概要



■ エア・ウォーター社製

■ 製造能力: 45 L/h

■ 貯蔵量: 3500 L

ヘリウム液化室 予定地



コンプレッサー室 予定地



熊本大低温装置室と中央試験所低温室の比較

	熊本大低温装置室	中央試験所低温室 (2009年度データ)
液体窒素利用料金 (業者からの購入料金)	100 円/L (140 円/L)	85~200円/L (63円/L)
液体ヘリウム利用料金 (業者からの購入料金)	1000 円 /L (1350 円 /L)	1200~円/L (1,500~2,000円/L)
利用者数	LHe: 5 研究室 LN ² : 60 研究室	LHe: 1 研究室 LN ² : 70 研究室
年間利用量	LN ² : 45,000~50,000 L	LN ² : 50,000 L
高圧ガス取扱主任者 免状保有者	5名(教員3名、職員2名)	3名(教員1名、職員2名)

2日目 (3月18日 金曜日)

「工学研究機器センター」見学

「工学研究機器センター」



概要工学部所属の 大型分析機器 共同利用施設

X線回折装置







- 1. 粉末 X 線回折装置
- 2. 単結晶 X 線構造解析装置
- 3. 微小部·薄膜X線解析装置

走査型電子顕微鏡と表面分析装置







- 1. 走查型電子顕微鏡
- 2. 走查型電子顕微鏡
- 3. **電子線マイクロプローブ** アナライザー

電子顕微鏡





- 1. 走查型電子顕微鏡
- 2. 透過型電子顕微鏡設置室

工学機器研究センターと中央試験所の比較

	工学機器研究センター	中央試験所
スタッフ構成	4名(兼務)	6名(機器分析担当)
機器の利用料金	~ 2000 円 /h	~ 1250 円 /h
設置機器数	15 機種	20機種、延べ40台以上
施設利用時間	月-金 9:00~17:00	月—土 9:00~22:00
利用形態	■ 予約制■ 依頼分析■ 利用者登録制	■ 要予約・予約不要■ 依頼分析■ オープン利用



おまけ 一 熊本の味覚「いきなり団子」



おまけ 一 縁は不思議



鬼も笑顔

まとめ 一所感一

- 恵まれた環境で働かせてもらっていること に感謝
- 技術変革の波も泳がなければならない
- ■3月の熊本は寒い

意見には個人差がございます